

教 育 長 様

| | | | |
|--------------------|------------|--------|--|
| 研究コース | グループ研究Bコース | 選定番号 | |
| 校園コード(代表者校園の市費コード) | | 561155 | |

代表者 校園名: 大阪市立本田小学校
校園長名: 銭本 三千宏 校印
電話: 6581-1531 FAX: 6581-3194
申請者 校園名: 大阪市立本田小学校
職名・名前: 教諭 長原 尚哉
電話: 6581-1531 FAX: 6581-3194
代表者校園 事務職員名: 大谷 由香

平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究 報告書

◇ 平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究について、次のとおり報告します。

| 1 | 研究コース | コース名 | グループ研究Bコース | 研究年数 | 新規研究(1年目) |
|---|-----------|--|------------|------|-----------|
| 2 | 研究テーマ | 「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の育成 ——元気・感動・仲間・成長を軸に—— | | | |
| 3 | 研究目的 | ◆ 研究内容のキーワード: 研究の内容をキーワードで記載してください。【例】学力向上、体力向上等 スポーツの文化的価値 「医療性」「芸術性」「コミュニケーション性」「教育性」「元気、感動、仲間、成長」 体のメンテナンスとスポーツの授業研究 栄養と運動の授業研究 ゲーム領域の系統性を明確にした運動の授業研究 パフォーマンス評価 ルーブリック 自らの成長を振り返る授業研究 | | | |
| 4 | 取り組んだ研究内容 | <p>小学校教育では「スポーツ」をする学科を「体育科」と言う。学校で行う「体育科」の授業は経験と勘で従来行われる傾向があった。そして、「体育科=体力の向上」のようにステレオタイプに捉え「体育科」のイメージを「スポ根」に象徴されるような狭隘なイメージにしてしまっていた。本来、「体育科」は新学習指導要領にあるように体力の向上のみならず、「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成」をめざす教科であり、スポーツのもつ「スポーツを通じた健康づくり」や「栄養・休養・運動という健康の柱づくりを通じた病気にならない健康な人づくり」といった「文化的な価値」の高い教科である。「スポーツ基本法」では「スポーツは、世界共通の人類の文化である」という文言も入っている。今回、新学習指導要領では、「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」という言葉で、スポーツの持つ「文化的価値」がしっかり強調されている。新学習指導要領移行のため、現行の「体育科」を「文化的な価値」の視点から捉え直し、児童に「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成するのが研究目的である。そして、本研究を通して、長寿社会に生きる現在の児童が、生涯にわたって心身の健康の保持増進をすることも目的としている。</p> <p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <p>5月29日 両校で研究目的、研究方法の共通理解をはかり、新学習指導要領と総則、体育編を精読する。体育科の学習において運動の系統性を踏まえること、パフォーマンス課題とルーブリックを活用したパフォーマンス評価が重要であることを共通理解した。</p> <p>6月25日 筑波大学付属小学校 齋藤直人先生による「系統性を重視した体育科授業のあり方」の模範授業の参観、本田小学校長原尚哉教諭による提案授業、公開実技研修を午前は御幣島小学校、午後は本田小学校で開催。150名以上の参加者と共に研究を深めることができた。全ての参観者から今後の研究に「大いに役立った」、「役だった」というアンケート評価を頂いた。</p> <p>7月 両校で校内研究授業及び先進校視察 筑波大学付属小学校等への視察</p> <p>8月 先進校視察</p> <p>10月 本田小学校にて指導栄養教諭による「運動と栄養」の授業研究会。骨の形成のために栄養と運動が板に重要であるかという授業研究会を校内研究で行った。</p> <p>9月 両校で校内研究授業 御幣島小学校、本田小学校の校内研究授業を行った。</p> <p>11月22日 本田小学校にて公開授業 ボール運動と他の運動領域をクロスさせ、1単位時間の中に多様な運動を学習する方法を取り入れ、心と体を育てる体育科の公開授業を行った。会場は本田小学校で一日をかけて行い、小林周太郎教諭、清水麻衣教諭、長原尚哉教諭による提案授業、筑波大学附属小学校齋藤直人教諭による師範授業を行い、200名近い参観者と共に、体のみならず心を育てるスポーツ活動について研究を深めることができた。</p> <p>12月 本田小学校にて「運動とけがの予防」の授業研究会。本田小学校の3年生の保健指導で準備運動の重要性について校内授業研究を行った。</p> | | | |

| | | | | | |
|---|------------------|--|-------------------|------|---------|
| 5 | 成果・課題 | <p>申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。</p> <p>○ 先進的な体育科の学習の在り方を指導者が学ぶことにより、体育科の授業を充実させることができ、児童が基本的な動きや技能を身に付けることができるようになった。御幣島小学校では「体育授業の中で身に付けさせたい運動感覚、運動技能を低学年～中学年～高学年と系統性を意識した師範授業」を筑波大学附属小学校教諭齋藤直人先生にさせていただいた。5年生、4年生、1年生のそれぞれの学年に3時間にわたりご指導いただき、参加者からは「自分でもできそうなアイディアだ」「それならやってみたい」という感想を多く持っていた。体育授業に苦手意識をもっている先生にも「簡単で手軽」「楽しそう」「児童に力がつく」授業の方法を学んでいただくことができた。</p> <p>○ 仲間と共に運動に親しみ、楽しく明るい生活を営む児童の育成を図ることができた。特に体育科の見方・考え方の「する・みる・支える・知る」などの多様な運動へのかかわりを重視することにより、得手不得手をを超えて児童は運動に親しみ、豊かなスポーツライフを目指すようになってきた。</p> <p>○ 各種の運動経験を通してフェアなプレイを大切にしている児童の育成を図ることができた。児童は運動競技を行うことを通して、公正・協力・責任・参画・共生を学ぶことができた。研究会参加者の95%が運動の意義や特性を踏まえてフェアプレイを大切にしている児童の姿が見られたという評価があった。特に特別支援を要する児童が仲間と共に運動に浸っている姿が印象的であるという参観者のコメントもあった。</p> <p>○ 筋道を立てて練習や作戦について話し合うことや、身近な健康の保持増進について話し合うなど、コミュニケーションや論理的な思考力の育成を促すことができた。本年度は「ゲーム領域」「体づくり運動」について1年生から6年生までの系統性を明確にし、実践してきた。それにより、指導者も児童も一人一人の児童の課題を見つけ、その解決に向けて思考判断をする指針をもつことができ、活発に友だちに伝える場面が増えた。系統表については公開授業時に参加者に配付した。参観者のアンケートには体育科のような活動が多く取り入れられる教科は系統を明確にし、ゴールを指導者と児童が共有すること、パフォーマンス評価をルーブリックで明確に行うことの大切が理解できたと多くの感想を頂いた。</p> <p>○ 保健学習や栄養指導、食育を計画的に行ない、運動、食事、休養及び睡眠等についての学習を通して、児童の健康的な生活習慣の形成を図ることができた。校内研究会の取り組みになったが、御幣島小学校、本田小学校の栄養教諭、栄養指導教諭が健康の保持増進と体力の向上のための食事について高学年に授業を行い、明るく楽しい生活を営むことの大切さを指導した。</p> <p>○ 運動や健康についての自己課題を児童自らがを見つけ、その解決に向けて思考し判断することができるようになった。児童アンケートの結果、どの学年においても85%以上の児童が運動が好きであると答え、80%以上の児童が運動の基本的な動きができるようになったと答えている。準備運動の大切さ、友だちの運動様子を見て・支えることの大切さ、運動は体を元気にするだけでなく、友だちと感動したり、より仲良くなることができるという感想を持つ児童が多く見られた。</p> <p>○ 本研究の成果については、公開授業研究会で参観者へのアンケート調査を行う。アンケート形式についてはICTモデル授業の「教育センターの調査用紙」を使用した。公開授業の参加者は約350名。御幣島小学校、本田小学校の両校とも95%の参加者が公開授業の内容が役に立ったと回答していた。特に「体育科であるからこそ、6年間の見通しで児童の体力向上や体育科の学習内容を考えないといけないことがわかった。」「1時間ごとの授業づくりも大切であるが、カリキュラム全体で学習内容を捉えることが重要であることがわかった」などの多くの意見を頂いた。</p> <p>○ 児童の「運動への嗜好」「健康や栄養への関心」「運動能力」については「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」を使用し、御幣島小学校・本田小学校の両校で効果検証を行った結果、50m走、ソフトボール投げ、反復横跳びの領域が大きく伸びていた。また、85%の児童が「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きであると回答し、70%を超える児童が自分の体力に自信があると回答していた。また、毎朝朝食を食べる。夕食を食べるという児童の割合も向上し、睡眠や健康に留意する児童も増えた。</p> | | | |
| | | | | | |
| 6 | 研究発表等の日程・場所・参加者数 | 参観者の | | | |
| | | 日 程 | 平成 30 年 11 月 22 日 | 参加者数 | 約 100 名 |
| | | 場 所 | 大阪市立本田小学校 | | |

※上記の内容について、原則として**フォントは10ポイント、A4判2ページ(両面印刷1枚)**で作成し、**平成31年2月25日(月)までに**、大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。(研究資料等を添付)